

明日をたくましく生き抜く思考力・判断力・表現力を育む国語科授業の創造

上原 孝夫 [鹿児島市立田上小学校]・赤石 裕樹 [鹿児島市立田上小学校]
野間 なつき [鹿児島市立田上小学校]

Creating Japanese lessons for developing abilities of thought, decisiveness, and expression to live healthy and strong in the future

UEHARA Takao · AKAIISHI Yuuki · NOMA Natuki

キーワード：思考力・判断力・表現力、描写、説明

1 研究の背景

平成24年度までの四年間、本校では、「よりよい生き方と未来を拓く国語科教育」を研究テーマに、「自分の考え」や「主体的」などをキーワードに、言語活動の充実を図りながら「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」を大切に授業作りを行ってきた。特に、一人一人が意欲的な学びの中で自分の考えを形成し、活発に表現し合う「子どもと進める授業」を推進し、主体的で協働的な「学び合い」の姿が見られるようになった。一方で、子供の思考を広げたり深めたりする活動や子供同士の「学び合い」を充実させる取組を継続して行っていく必要があると考えた。

そこで平成25年度からは、「明日をたくましく生き抜く思考力・判断力・表現力を育む国語科授業の創造」を研究テーマに、言語を手掛かりにしながらものの見方や考え方を広げたり深めたりし、自分の思いや考えをより豊かに伝え合う子供の育成を目指すことにした。

2 研究の方向

自分の思いや考えをより豊かに伝え合うには、どの言語活動も重要である。特に「書くこと」は、相手に伝える手段だけではなく、自己と向き合い心を耕す営みであるとも言える。そこで、「書くこと」の領域で、「描写」と「説明」という2つのキーワードを掲げ、思考力・判断力・表現力を育む手立てについて研究を行うことにした。その際、取材の工夫や語彙・技法の充実を図った「書くこと」の学習を通して、子供のものの見方や考え方を広げていきたいと考えた。また、協働的な「学び合い」を通して、これまでの生き方を見つめ直したり、これからの生き方を考えたりするよい機会を充実させたいと考えた。

3 「描写」と「説明」

「書くこと」において、描写的に書くことと説明的に書くことの違いを、経験報告文の構成例を挙げながら説明していくことにする。図1のように一般的な経験報告文は、主に「自分で見たり聞いたりしたこと(事実)」と「感じたり思ったりしたこと(意見)」の2つのまとまりで構成されていることが分かる。(図1)

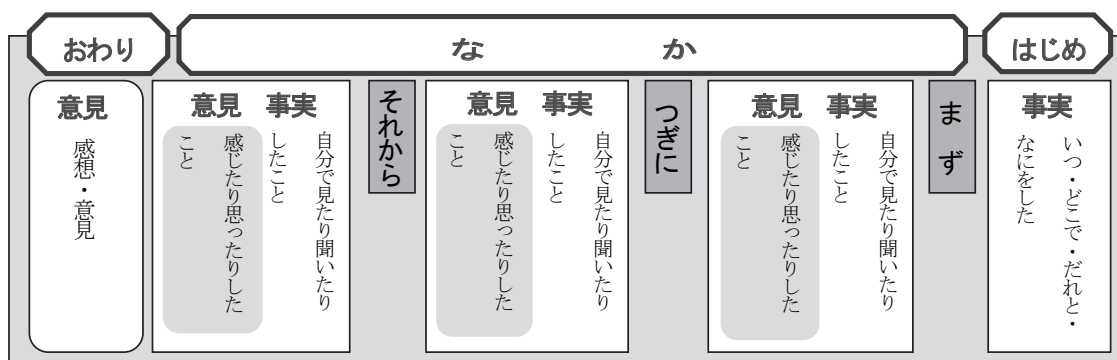


図1 経験報告文の構成例

この「事実」部分と「意見」部分とは、それぞれ以下のように書き分けることで、相手によりいきいきと分かりやすく自分の経験したことやその時の思いなどを伝えることができると言える。

事実部分 自分の経験や事柄の様子などを読み手にも伝わるよう*いきいきと描写的に書く。*

意見部分 自分が感じたことや思ったことなどを読み手にも伝わるよう*分かりやすく説明的に書く。*

経験報告文に限らず、小学校で学習する文章様式のほとんどが、この「事実」と「意見」の2つのまとまりで構成されており、その関係性をまとめると表1のようになる。

表1 小学校で学習する15の文章様式

	系列	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
文章様式	主に事実を伝えるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 説明文 ・ 観察記録文 ・ 経験報告文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報道文 (新聞) ・ 調査報告文 ・ 紹介文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動報告文 ・ 推薦文 ・ 随筆
	主に意見を伝えるもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感想文 ・ 物語文 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手紙文 ・ 詩 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見文 ・ 短歌・俳句

特に、第5学年及び第6学年で学習する随筆や推薦文などは、「事実」と「意見」とを巧みに織り交ぜながら、自分の思いや考えを効果的に伝えていく文章である。この構成上の特性に着目し、自分の思いや考えを豊かに表現する力を育むためには、「事実」と「意見」を適切に書き分ける力を身に付けさせることが大切であると考え、以下のように具体的な手立てを工夫した。

4 研究の実際

(1) 描写的に書くための手立ての工夫

① 取材の充実

「描写的に書く」とは、書き手が直接体験したことや本や人から間接的に見聞きしたこと、または、観察したことなどの事実を読み手にも伝わるよういきいきと描き写すことである。例えば「物語文」や「経験文」では、読み手が想像し、追体験できるようにいきいきと場面の様子を描くことが大切である。一方で、「記録文」や「報告文」においても、見聞きしたことや調べたことなどの事実をくわしく書き表すことが大切である。

そこで、欠かせないのが取材の充実である。取材には、大きく分けて4つの方法(図2)がある。まずは、子供がこの4つの取材方法を自覚し、目的に応じて適切に使分けられるよう意識付けを図る。次に、取材を行う際は、感覚器官をいっぱいに使って多様な感じ方(図3)をすることやどんな点に着目して材料を集めればよいか(図表4)などの観点を与え、「多面的にみる」思考スキルを育てる。更に、これら取材の方法や観点を踏まえた上で、子供自身が楽しくいきいきと取材を行えるよう取材メモのあり方を工夫し、書きたい思いと材料を豊かにしていくようにしていった。写真1のように視点を教室内に掲示することで、子供へ意識付けを図ることができた。また、写真2・3のように取材メモの手作りや付箋紙を活用した操作活動を取り入れることで、子供の意欲付けを図ることもできた。

- ① 見たことやした事を思い返す。【想起・回想】
- ② 見たり触ったりして観察する。【観 察】
- ③ 友達や家族、先生にたずねる。【質 問】
- ④ 本や資料などを使って調べる。【資 料】

図2 取材の方法



図3 諸感覚と心を使って

- | | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ちかづいて、よくみる。 | <input type="checkbox"/> かたち、いろをみる。 | <input type="checkbox"/> おおきさを みる。 |
| <input type="checkbox"/> かずを かぞえる。 | <input type="checkbox"/> うごかしてみる。 | <input type="checkbox"/> さわる。 |
| <input type="checkbox"/> においを かぐ。 | <input type="checkbox"/> おとを きく。 | <input type="checkbox"/> あじを みる。 |
| <input type="checkbox"/> おもいだす。 | <input type="checkbox"/> そうぞうする。 | <input type="checkbox"/> かんがえる。 |

図4 五感と心を生かした取材の観点

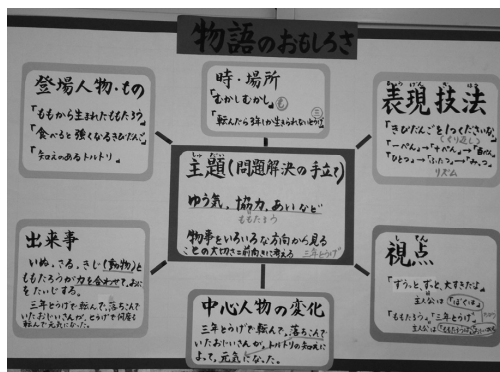


写真1 物語を書くときの工夫する観点

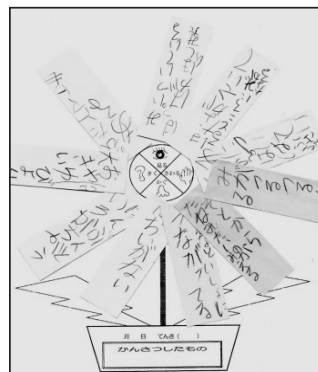


写真2 付箋紙で作る「花メモ」



写真3 手帳型の取材メモ

② 語彙・技法の充実

語彙や技法を豊かにすることで、より「豊かな表現」が生まれる。教科書や関連図書の中から優れた表現を子供自身が見付け、国語辞典で調べたり、比較・分類したりすることで、より定着が図られ子供の文章に生かされるようになる。主に「経験文」を書くときには、人物や情景の様子をいきいきと書くための技法(図5)を、自分が直接経験したことでではなく、人の考えを引用して書くときに必ず必要となる引用のルール(図6)を、子供に活用させるようにした。

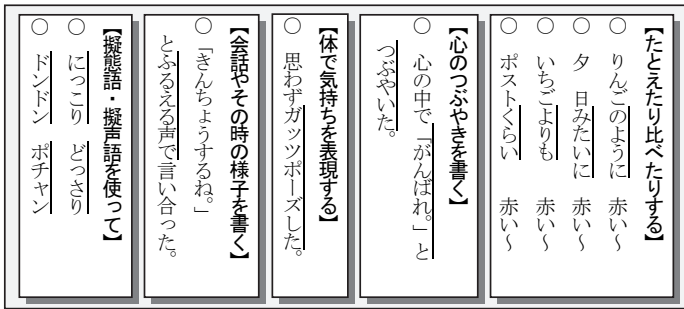


図5 様子をいきいきとくわしくする書き方

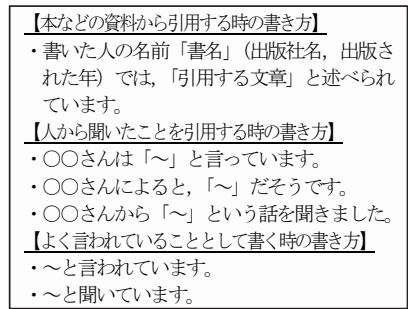


図6 引用するときのルール

(2) 説明的に書くための手立ての工夫

「説明的に書く」とは、自分が思ったことなどを読み手にも分かりやすく順序よく書いたり、自分の考えやその根拠などを筋道立てて説明的に書いたりすることである。下(写真4)のように随筆の締め括り方には文型がいくつかあり、どのような書き出しや文末表現で記述すればよいのか、モデル文を分析的に読ませながら分類・整理させるようにした。また、自分を見つめ直して書く場合には、過去の自分と現在の自分を対比的に書くことよきことなど、構成の工夫についても学ばせるようにした。

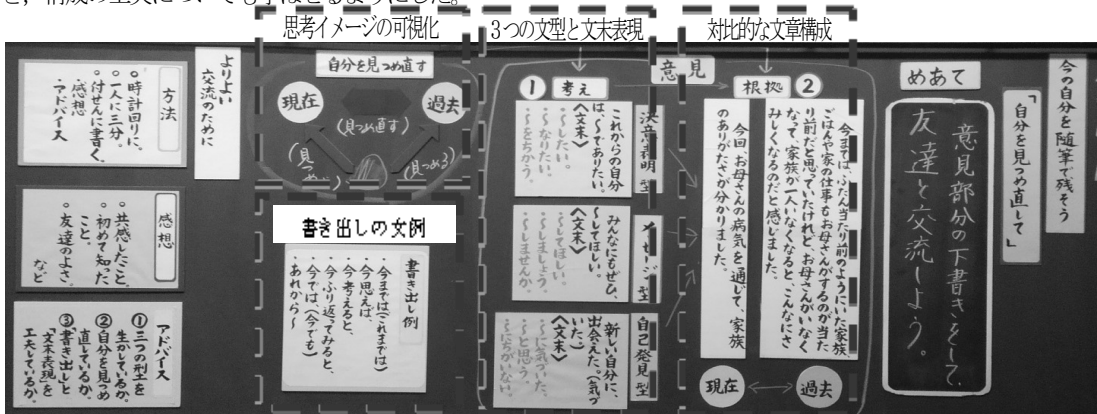


写真4 第6学年「自分を見つめ直して～随筆を書こう～」の板書例

第1学年「おみせやさんごっこをしよう」では、写真5のように一枚のちらしの中に、描写的にいきいきと書く部分と説明的にくわしく書く部分があることを短冊の色の違いで捉えさせた。短冊を使うことで言葉や文を自由に移動したり選択したりすることができるので、表現の効果を吟味する場合に大変有効であった。写真6は、自分が推薦したい事柄について、自己・相互評価するためにPM表を活用した実践である。自分のアイデアをプラス面とマイナス面から客観的に評価し、また友達からも評価してもらうことで、読み手が納得できるような明確な推薦理由となり得ているかを考えさせていった。

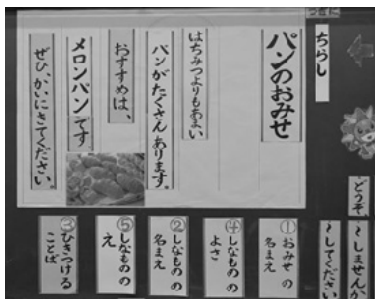


写真5 色別の短冊で示したちらしの構成

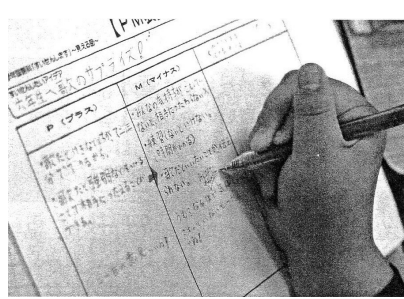


写真6 自分の考えを自己・相互評価できるPM表

このように、自分の考えを可視化できる「見える図」の活用は、文章を説明的に書く際に大変効果的と言える。

(3) 協働的な「学び合い」の中で思考力・判断力・表現力を高める手立て

昨年度の研究から継続して、子供と教師が共に授業を作り上げていく「子どもと進める授業」を推進している。子供は、司会や記録などの役割を分担しながら、自分の考えを「一人で→グループ（ペア）で→みんなで」の順に沿って高めていく。その際、付箋紙やホワイトボード、ICTなどの思考を可視化するツールを活用した。書き上げた文章を相互に読み合い、推敲・評価し合う場合、それぞれの考えを付箋紙やホワイトボードを使って可視化して伝えることによって、互いの表現のよさをより効果的に交流することができる。また、ICTを活用することによって、個やグループの考えを学級全体でも共有できるようになった。



図7 ホワイトボードでグループの考えを可視化し、共有化する協働的な「学び合い」の場面

(4) 授業実践

本授業では、以下の検証を行うものである。

ちらしには、品物のよさをいきいきと描写的に書き表す部分と、買いに来てほしいという思いを分かりやすく説明的に書き表す2つの部分があることを意識させ、また、それぞれの考えを可視化し協働的な「学び合い」の中で書かせることで、自分の思いをより豊かに表現することができたか。

(1) 単元名 ことばって、おもしろいな 「ものの名まえ」「おみせやさんごっこをしよう」

(2) 目標

宣伝のちらしに必要な事柄を集め、売る品物のよさが伝わるように文章を考えて書いたり、客と店の人になって売り買いのやり取りをしたりすることができるようにする。

(3) 単元の評価規準

- お店屋さんごっこの活動に関心を持ち、進んでちらしを書いたり、売り買いのやり取りを楽しんだりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 宣伝のちらしに必要な材料（店の名前、品物の特徴など）を集めている。 【書く能力】
- 客に伝えたいことが分かるように、組み立てを考えてちらしを書いている。 【書く能力】
- 丁寧な言葉を使いながら客と店の人になって話し方を工夫している。 【話す・聞く能力】
- 上位語と下位語の違いと使い分けについて、正しく理解している。 【言語についての知識・理解・技能】

(4) 指導計画 (総時数10時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	<p>1 学習のめあてを決め、学習計画を立てる。</p> <p>「1ねん4くみ にこにこしょうてん」おみせやさんごっこをしよう。</p> <p>【関：お店屋さんごっこの活動に関心を持ち、進んでちらしを書いたり、売り買いのやり取りを楽しんだりしようとしている。】</p> <p>実際のちらしを提示することで、お店屋さんごっこへの関心をもたせ、また、教材文や挿絵からちらしの作り方や売り買いのやり取りについて学習することを確認し、見通しをもたせるようにする。</p>	1
情報をもとに考える	<p>2 「ものの名まえ」の教材文から、上位語と下位語の違いと使い分けについて知り、身近な品物の分類について考える。</p> <p>【言：上位語と下位語の違いと使い分けについて、正しく理解している。】</p>	2
	<p>3 「おみせやさんごっこをしよう」の教材文から、開く店と売る品物を考えて、店の看板や品物カードを作成する。</p>	2
	<p>4 教材文や実際のちらしから宣伝のちらしの工夫を知り、必要な材料を集める。</p> <p>【書：宣伝のちらしに必要な材料(店の名前、品物の特徴など)を集めている。】</p> <p>5 宣伝のちらしの構成を考え、売りたい品物のちらしを書く。</p> <p>【書：客に伝えたいことが分かるように、組み立てを考えてちらしを書いている。】</p> <p>6 教師が演じるモデルから客と店の人のやり取りの仕方を知り、グループごとに売り買いの練習をする。</p> <p>「思考スキル」を活用させたり、グループで交流させたりする中で、多様な見方・考え方があがることに気付かせるとともに、ちらしの作成ややり取りに生かせるように意識させる。</p>	1 1 1 (本時) 1
主体的に表現する	<p>7 おみせやさんごっこを行い、学習をまとめる。</p> <p>【話・聞：丁寧な言葉を使いながら客と店の人になって話し方を工夫している。】</p> <p>全員が客と店の人を交代しながら、売り買いのやり取りを楽しませることで、自分のものの見方・考え方が広がったことや目的をもった話し方・聞き方ができるようになったことを実感させる。</p>	2

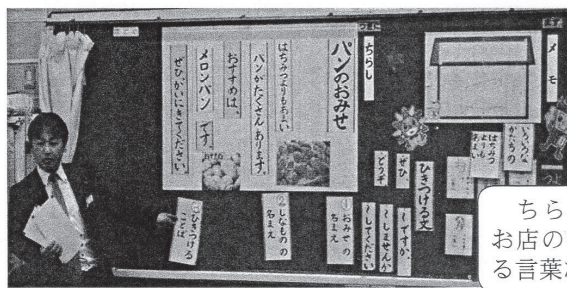
(5) 実 際 (7/10)

① 教師の手立ての工夫

本時では、モデルとするちらし「パンのおみせ(教師自作)」を分析的に読ませ、まず、どこに何が書かれているか構成を捉えさせました。次に構成メモに下書きをさせていきます。メモは、文章のまとまりを意識して書けるよう店舗の外観を模った四つの枠に書かせるようにしました。子供は前時までに取材し、付箋紙に書き溜めておいた「いきいきことば(品物のよさを描写する言葉)」や「せんでんことば(相手に思いを説明する言葉)」を、自由に並べ替えたり組み合わせたりしながら、それぞれの思いがいっぱい詰まったちらしを作り上げていきました。

② 本時の流れ

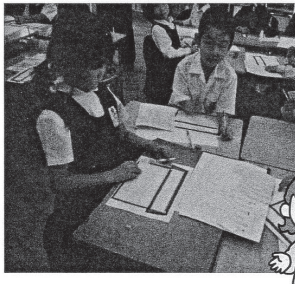
1 モデルのちらし「パンのおみせ」を分析的に読み、ちらしの構成を読む。



モデルのちらしを読んで、どこに何が書かれているかを考えてみましょう。このちらしは、いくつの文(まとまり)で書かれていますか？

ちらしは四つの文でできています。お店の名前やおすすめの商品、宣伝する言葉などが書かれています。

2 2つのまとまりを意識し、描写と説明の違いを考えながら、ちらしの下書きをする。

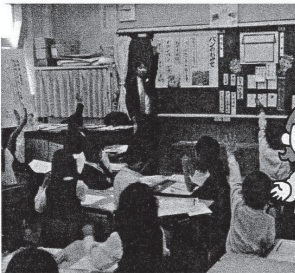


ちらしが二つのまとまりで構成されていることが分かりました。では、お客さんが買いたくなるように、工夫してちらしを作りましょう。

メモがお店の形をしているから楽しい。二つのまとまりを意識して書くこともできるね。

前時の学習で、付箋紙に言葉を書き溜めておいたから、より豊かな表現を工夫できるぞ。

3 出来上がったちらしを見せ合い、互いのよいところを発表し合う。



「～よりも～」や「～みたいな」など、比べたり例えたりする言葉を使うことで、品物のよさをより豊かに描写することができるね。

お店の名前を最後に書くなど、順番を入れ替えて書くのも説明的に書く面白い工夫だね。

前半部分の「品物のよさ」は、いきいきと描写するように書き、後半部分の「宣伝」は、くわしく説明するように書けましたか。

(6) 考 察

本実践では、ちらしという短い文章の中にも、品物のよさ（事実）をいきいきと書き表す部分と、お客さんに買いに来てほしいという思い（意見）を書き表す二つの部分があることを意識させて書かせた。子供は、品物のよさをいきいきと描写するためには五感を働かせて豊かな取材を行った。り、比喩などの表現技法を取り入れたりすることの大切さを実感できたようである。また、身近なちらし等からたくさんの宣伝文を集め、グループで分類・整理しながら自分の表現に生かしてきたことで、それぞれが思考・判断を深めながら、より豊かな表現へと高まった自分だけのちらしを作ることができた。

本授業では、以下の検証を行うものである。

「比較する」思考スキルを意図的に活用させることで、物語の構成（起・承・転・結）を意識しながら、物語の目次を作成することができたか。

(1) 単 元 名 3年 組み立てを考えて書こう 「物語を書こう」

(2) 目 標

思考スキルを用いて物語を分析的に読むことで、物語の組み立てに気付き、それを生かして物語を書くことができるようにする。

(3) 単元の評価規準

- 想像を広げながら、楽しんで物語を書こうとしている。 【国語への関心・意欲・態度】
- 物語の内容に応じて必要な情報を集めている。【書く能力】
- 物語の組立ての型を理解し、それを使って文章を構成している。 【書く能力】
- 場面の様子や人物の気持ちを詳しく書いたり、会話文を入れたりしている。 【書く能力】
- 書いた物語を読み合い、互いのよさを中心に感想を交流している。 【書く能力】
- 物語がどのように組み立てられているかを考え、整理しながら読んで、登場人物の気持ちを推測している。 【読む能力】
- 句読点を適切に打ち、段落の始めや会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。

【言語についての知識・理解・技能】

(4) 指導計画 (総時数12時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 「ももたろう」などの代表的な物語のおもしろさ(主題)を確認し、学習課題を設定し、学習計画を協議する。 自分で考えた物語を作り、1年生に読み聞かせをしよう。 【関：想像を広げながら、楽しんで物語を書こうとしている。】	1
	2 教材文「三年とうげ」と「ももたろう」を比較しながら分析的に読み、物語のタイトルや設定、組み立ての共通点を見付ける。 【読：物語がどのように組み立てられているかを考え、整理しながら読んで、登場人物の気持ちを推測している。】	3
情報をともに考える	3 「マインドマップ」を用いて、書きたい物語の主題から連想を広げたり、言葉と言葉を関連付けたりして、物語の設定(時・場所・出来事・人物・タイトル)を決める。 【書：物語の内容に応じて必要な情報を集めている。】	1
	4 教師が自作した4種類の三年とうげの目次を比べ、「目次作りのコツ」を見つけ、物語の目次を作成する。 【書：物語の組立ての型を理解し、それを使って目次を作成している。】	1 (本時)
	5 お互いの目次を見せ合い、アドバイスし合う。 【書：書いた目次を読み合い、互いのよさを中心に感想を交流している。】	1
	6 「物語名人3」を意識しながら、物語の下書きをする。 【書：物語の組立ての型を理解し、それを使って文章を構成している。】	1
	7 「物語名人3」を観点に、友達同士読み合い、互いにアドバイスをし合う。 【書：書いた物語を読み合い、互いのよさを中心に感想を交流している。】	1
	8 アドバイスを生かして、清書をする。 【言：句読点を適切に打ち、段落の始めや会話の部分などの必要な箇所は行を改めて書いている。】	1
	9 できあがった物語をグループで読み合い、読み聞かせ会の練習をする。	1
	10 1年生に読み聞かせ会を開く。 【書：書いた物語を読み合い、互いのよさを中心に感想を交流している。】	1

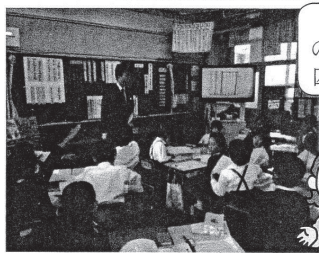
(5) 実 際 (6/12)

① 教師の手立ての工夫

本時では、4種類の目次(「三年とうげ」教師自作)を比較させ、最も適しているのはどれかを自分たちで話し合わせながら、手引書「目次作りのコツ」としてまとめさせていきました。その後、自分が書きたい物語の目次を考えさせていきました。その際、付箋紙を使ったことで子供は出来事の順序を自由に並べ替えたり、何度も加除修正したりするなど、より思考を深めながら自分だけの物語の構想を豊かに膨らませることができました。

② 本時の流れ

1 四つのモデルのうち、「三年とうげ」の目次として最もふさわしいのはどれかを吟味する。

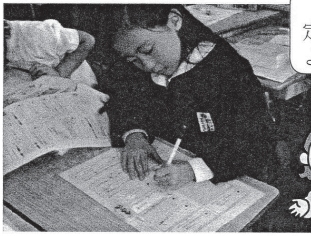


「目次」を作ることを通して、あらすじを考えたり、話の展開を工夫したりすることが一度にまとめてできます。四つのうちのどの目次がいいでしょうか。

Dの目次は「はじめ」だけがくわしく書かれて「なか」の部分が少ないね。

物語を書くときは、出来事の順序やつながり、構成のバランス等に気を付けた方がいいね。

2 「はじめ」「なか」「おわり」のバランスを考えながら、3色の付箋紙を使って目次を作る。

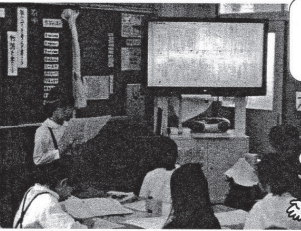


物語の「はじめ」には、主に登場人物の紹介や場面設定が描かれています。どんな出来事が起こるのか、どのように解決するのかは「なか」に書きます。

自分たちで「目次作りのコツ」を見つけたから、目次がすらすらと書けていくよ。

3色の付箋紙を使っているから構成のバランスも一目で分かるし並べ換えも自由だね。

3 書いた目次をグループや全体で読み合い、よさを認め合ったり、アドバイスしたりする。



「なか」の部分に「出来事の起こり—出来事の変化—むすび」の流れがよく描かれています。不思議な鍵を拾うなど、ファンタジーの特徴を生かしていますね。

目次を作ることで、お話の構想がいつぱい膨らんだよ。早く物語を書きたいなあ。

友達と目次を読み合ってアドバイスもたくさんもらえたし、自信も出てきたよ。

(6) 考察

四つの目次を比較したり、付箋紙を使って自分の考えを可視化したりしながら、思考・判断を深めたことで、子供は物語の構想をより豊かに広げ、自分だけの楽しい物語のイメージを膨らますことができた。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

- 「書くこと」の学習場面において、適切な「思考スキル」を活用し、子供の考えを可視化する手立てを取り入れてきたことで、子供自身が、どのように考えたらよいか分かるようになってきた。
- 描写的に書く部分と説明的に書く部分を意識して書き分け、それぞれに必要な語彙や表現技法等を身に付けさせてきたことで、子供の表現力がより豊かになってきた。
- 協働的な「学び合い」を通して、他者との対話を通して、自分の考えを再構築する姿が見られるようになってきた。

(2) 課題

- 「書くこと」の学習場面において、適切な「思考スキル」を活用し取材した内容を、よりよい表現へとつなげていく手立てを更に研究していく必要がある。
- 必要な語彙や表現技法等を用いながら文章様式を意識して書き分けることができるように、継続した書く活動を行わせていく必要がある。
- 協働的な「学び合い」の中で、更に主体的に学習に取り組んだり、自分の考えを再構築したりすることができるように、単元の中で適切な「学び合い」を設定したり、話し合いのテーマを工夫したりする必要がある。

6 参考文献

文部科学省(2008)「小学校学習指導要領解説国語編」

文部科学省(2005)「読解力向上に関する指導資料—PISA調査(読解力)の結果分析と改善の方向—」

水戸部修治著(2013)「小学校国語科 授業&評価パーフェクトガイド」. 明治図書

別資料「思考力・判断力・表現力を高める国語科『書くこと』の学習過程(単元)」

個の思考力・判断力・表現力を高める国語科「書くこと」の学習過程(単元)	
手立ての工夫	子供の意識と教師の言葉掛け
<p>課題意識の喚起</p> <p>1 モデル文を提示し、課題意識をもたせる。</p> <p>(1) モデル、もしくはエラーモデルを読ませ、文章様式と課題をとらえさせる。</p> <p>(2) 「書きたい」思いと内容を膨らませる。</p> <p>(3) 相手・目的意識を明確にもたせる。</p>	<p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ③ 子供が表現への思いを膨らませていること</p> <p>子供が「書きたい」と思えるような具体的モデル文を導入で提示し、子供の課題意識を高めます。</p>
<p>課題解決への見通し</p> <p>2 学習計画を話し合わせ、学習の見通しをもたせる。</p> <p>(1) 書く題材や分量、体裁など、作品化までのイメージを明確にもたせる。</p> <p>(2) 書く過程を学習計画表にまとめさせる。</p>	<p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ① 子供が表現の相手を明確にしていること</p> <p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ② 子供が意図をもって表現していること</p> <p>学習計画表を作成することで、相手・目的意識が明確になり、また書く過程を自覚化させることができます。</p>
<p>学びを深める協働的な「学び合い」</p> <p>4人で編成した「司会団」とフロアの子供たちが主体的に授業を進めていきます。展開部は、協働的な「学び合い」となるよう「一人で→グループで(ペアで)→みんなで」と学習を進めていきます。また、六つの思考スキル(①比較する ②分類する ③多面的に見る ④関連付ける ⑤構図化する ⑥評価する)を意図的に取り入れることで、子供の思考・判断を更に深めることができます。</p>	<p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ⑥ 子供が表現する機会を意識していること</p>
<p>可視化・具体化しながら考える課題解決</p> <p>3 書くために必要な材料を集めさせる。</p> <p>(1) 様式に応じた取材方法を考えさせ、自分の取材に適した方法を選択させる。</p> <p>(2) 多面的に取材させ、簡潔なメモにまとめさせる。</p> <p>4 集めた材料を順序よく並べる。</p> <p>(1) モデル文の文章構成を分析的に読み、事実部分と意見部分の組み立てを考える。</p> <p>(2) 自分の思いが効果的に伝わるよう書く順序を工夫して並べる。</p> <p>5 表現を工夫しながら、下書きをする。</p> <p>(1) モデル文から優れた語彙や表現技法を見付け、手引き等にまとめる。</p> <p>(2) 自分でまとめた手引き等の語彙や技法を生かして、下書きをする。</p>	<p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ⑤ 子供が表現したいことを整理できていること</p> <p>考えを可視化して整理するには、付箋紙や短冊、ホワイトボードの活用が有効だね。またICTを活用すれば全体でも考えを共有できるね。</p> <p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ④ 子供が表現の方法を身に付けていること</p> <p>自分の思いを効果的に伝えるにはどんな技法や文末表現、または文章の組み立てにすればいいだろう。</p> <p>いきいきと描写的に書いたり、くわしく説明的に書いたりするための構成や表現技法、語彙、文末表現などをここでしっかり学ばせていきます。</p>
<p>単元終末における表現</p> <p>6 書いた文章を読み直して、清書をする。</p> <p>7 書き上がった文章を読み合い、感想などを交流する。</p>	<p>書き上がった作品を交流することで、生かしたい友達の表現のよさや新たな自分の課題が見つかったぞ。</p>
<p>自己評価、相互評価による思考の再構築</p> <p>8 作品を再読・評価し、本単元で学んだ知識・技能をまとめ新たな課題を見付ける。</p>	<p>「豊かな表現」へと導く七つのポイント ⑦ 自他の表現への評価意識をもってしていること</p>